

# 防災論じる選挙に

## 渡会県議が本社で語る

豊橋市選挙区選出の公明党県議、渡会克明氏(58)は23日、東海3回目は23日、東海日日新聞社を訪れ、選挙戦の近況などについて語った。東日本大震災で、前哨戦たけなわの統一地方選の風向きが変わりつつあり、災害対策を課題にした「震災選挙」になるとの見通しを述べた。

「選挙区内に被災した関係者の親族など関係者が何人かいる。被災地では地域で支え合い、地域防災ネットが広がっている。現場第一主義で現地の声を聞き、すばやく対応すべきだ」と体験談。

「選挙なんかやっているといる場合じゃないという意見もあるが、選挙は有権者のためにやるものであり、ガソリンを使わない選挙戦術にするのはいかがなものか。皆さんの意



選挙を語る渡会克明氏(本社で)

見を聞いて判断するが、こと愛知県では、きちっとやるべきだと思つた」。

県民の関心が大震災に向き、投票率が低下しそうだ。「地域政党の躍進が焦点だったが、名古屋市議選の結果を見て

も、変化が出て来ている。風向きは変わった」と見通し、「堅実な選挙になる」。

阪神淡路大震災を踏まえ、県議会では被災者支援策を取り上げた。その結果、愛知県が中心となり、03年度に民間木造住宅耐震改修費助成事業、05年度に家具の転倒防止支援事業が始まった。「災害対策、防災対策を論じる選挙になる」。

(山崎祐一)